

定例教育委員会会議録

令和2年5月27日

境港市定例教育委員会（令和2年5月27日委員会会議録）

招集年月日 令和2年5月27日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 松本 敏浩

委 員（職務代理者） 中田 耕治

委 員 徳永 由樹 十河 淳 渡邊 不二子

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 亀 井 功

教育総務課長補佐 吉 川 秀 樹

教育総務課長補佐兼

指導係長 柳 樂 力 人

生涯学習課長 黒 崎 享

生涯学習課主査 松 本 昭 児

生涯学習課長補佐兼

生涯学習係長 角 本 豪

教育総務課長補佐兼

管理係長 足 立 統

傍聴者数 なし

教育総務課長補佐兼

会議書記 管理係長 足 立 統

提出議案 議案第25号 境港市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について

協議事項 教育委員会の点検・評価について

報告事項 5月の行事報告、6月の行事予定など

松原事務局長

新しい学習指導要領の中で大きなテーマに社会に開かれた教育課程が掲げられております。より良い学校教育を通じてより良い社会を作るという共通理解のもとで地域と連携しながら目標を達成していきたいと考えています。やはり学校からしっかり説明していくことが必要だと考えております。そういう視点で学校を参観していただくと、学校の課題や地域の課題が見えてくることにつながっていくと思います。

松本教育長

境港市はコミュニティースクールを通して社会総がかりで子どもを育てるという大きな方針を立てております。そういった面でも先ほどご指摘いただいた部分については重要な課題だと思います。そういったことを教育委員会や学校から発信しながら地域の方にご参加いただき、いろいろとご支援をいただくことが重要になると思います。

渡邊委員

評価項目のところにそういったことがあるとより良くなるのかなと思います。

松本教育長

わかりました。その辺りも次の機会に活かしていきたいと思えます。その他いかがでしょうか。

渡邊委員

学力向上事業・よりよい学級づくり事業でもそうなのですが、よりよい学級づくりと学力向上というのは多分セットだと思います。子どもたちの意欲の向上が学力向上につながっていくと思いますので、その辺りのところを先生方にもよく理解していただいて、学級経営も手を抜かないようにしていただきたいと思えます。

松原事務局長

学力向上の基盤にはよりよい学級経営というのが欠かせません。本市としましては、学級づくりの部分でQUを、学力の部分はCRTで客観的にとらえていくという2つがセットで学校現場にも定着してきています。更なる一歩が今年度求められてきていると思えます。

渡邊委員

検討事項の項目に回数の検討が必要だという記載がありますが、これはどういう意味ですか。

松原事務局長

回数を増やしてたくさんの資料を基にするということではなくて、ポイントポイントを押さえてやっていくことが必要ではないかと考えています。

松本教育長

先日、全校の校長面談をさせていただき、一人一人に今年のテーマをお尋ねしたのですが、学級経営であるということを通通して言われました。先ほどご指摘いただいたように、学級経営そのものが学力に直結しているということをきちんととらえていると感じました。我々もそういった観点で学校を支援していく必要があると感じています。その他はいかがですか。

中田委員

職場体験学習「ワクワク境港」についてですが、市に定着した良い事業だと感じています。実際に生徒が現場に行き、体験することは大事なことだと思います。いろいろな業種がありますので、そういった業種の特色や魅力、やりがいといったところを広く伝えるような場も考えていく必要があるのではないかと感じています。これから大きくなって、外に出て、帰ってくる子もあると思いますが、今言ったような場があれば、境港市の企業にこういった話を聞いたということがどこかに残って、今後の進路に関しても、これがしたいという目的を持った方向性や意識が働くのではないかと思います。

松原事務局長

ご指摘のとおり目的意識を持ってこの活動に臨んでいくことが重要になってくると思います。幅広い職種の中で自分の適性がどこにあるのかというところを事前にリサーチして、職に触れていくことが非常に大事だと考えています。

松本教育長

子どもたちがいろいろな方から励ましの声を受けながら目的を達成していく、不安な思いで職場に臨んでいくわけですが、周りの人の声掛けで目的を達成したという満足感を得て帰ってくるので、その後の前向きな姿勢につながる貴重な事業だということを学校現場にいるときに感じました。学校の働き方改革の中で職場を開拓することが非常に難しくなっており、この辺りをどうして行くのか、鳥取県の中には、この事業を学校がするのではなく、PTAが職場開拓をすべてやっているところがありまして、学校はその事業に臨む姿勢だけを子どもに指導するというところもあります。そういった持ち方は今後考え

ていかないといけないのかなと思います。

渡邊委員

コミュニティースクールの委員さんに働きかけてということ
はなかったのですか。

松本教育長

それはまだできていません。そこがセットになってくると
本物になってくると思いますが。

中田委員

コミュニティースクールについては、一中校区でゆるキャラ
を作って広く知ってもらうように働きかけ、各企業にもそうい
ったものを使ってもらうことでコミュニティースクールを理解
してもらい、その中に入ってもらうような形を作っていく。そ
ういったことが具体的になれば、このような活動をPTAに任
せることもやりやすくなると思いますので、その前段の準備と
いうところを少しずつ始めています。

松本教育長

この辺りがこれから充実していけば良いと思いますが、生徒
が訪問する企業が必ずしも校区にないということが一つの課題
になっています。企業の数が限定されますので、第二中学校の
生徒が第一中学校校区に入ったりしています。その辺りをどう
整理していくのか、そういったところも検討していく必要があ
ると思っています。その他いかがですか。

中田委員

市内にもいろいろな業種がありますので、子どもたちに対し
て自分たちの仕事について話をするような授業ができないもの
かと思います。時間的なところもあって難しい部分もあると思
いますし、やりにくい部分もあるかもしれませんが、そういった
ことから本当に意味での地域と企業と学校とのつながりもで
きるのかなと思います。また、進学するとき自分はこれがした
いからこの学校に行きたい、こういうことを学びたいというこ
とではなく、もしかしたらまだ学びたいことがわからない子も
あるかもしれません。そういった子が地元に戻ってくることは
少ないかもしれませんが、目的意識を持ったときに昔境港であ
あいったことを聞いて、こういう企業があったなというのがあ
れば、地元に戻りやすくなるのではないかと、そういった土壌を
作りだせたらなとも思います。

松本教育長

良い提案をいただき、ありがとうございます。その他ございますか。

十河委員

一斉公開について、6月4日と2学期はフェスティバルの日が公開されていたと思いますが、一中校区でコミュニティースクールがスタートして、これから地域に開かれた学校ということであれば、もっと頻回に地域の方に学校に来ていただいて、学校の様子、子どもたちの様子を観ていただく機会を増やした方が良いと思います。フェスティバルを観させていただくことも非常に素晴らしいことだと思いますが、通常の授業の様子をもう少し頻繁に観ていただく方が良いのではないかと思います。どうでしょうか。

松原事務局長

開かれた学校ということで、学校公開等を進めてきた中で次の段階に進んできたと思います。コミュニティースクールも導入されて、地域の方にも気楽に足を運んでもらえるようになって、もちろん防犯上の観点も考えながらにはなるとは思いますが、学校によっては月1回参観日を設けているところもあるので、そういったところをもう少し広げて、広報も進めながらやっていけたらと思います。

松本教育長

現在、中学校区ごとにコーディネーターになっていただく方を配置しており、そういう方が地域に出かけて、チャンスがないか、学校のニーズを聞くという動きをしていますので、これがこれからもっと充実していくのではないかと思います。

渡邊委員

多分一般の方が学校に向かうのは、なかなか敷居が高いと思います。依頼されたり、こんなことをしていますという広報があれば、足を運びやすくなるので、そういった工夫をしていただければと思います。

松本教育長

小学校は地域の方から学ぶ機会は非常に多くあるのですが、中学生は地域の一員として、地域貢献を自分たちがどれだけできるのかというところが一つのテーマになっています。中学校の方もそういった観点で考えていますので、これから広がってくれば良いと思います。三中校区は運動会等を通してそうした下地ができていますので、そういったところを活かしていけれ

ばと思います。その他ございますか。

渡邊委員 就学援助について、給食費の全額免除は本市だけということ
ですばらしいと思いますが、これは自分で申請されないといけ
ないですね。案内はどのようにされていますか。

亀井課長 就学援助の案内は学校を通じて年1回実施しています。転入
生については、学校で手続きされる際にその都度ご案内させて
いただいています。

渡邊委員 本当に必要な方が申請できていないということもあると思
いますので、学校にもアンテナを張ってもらうことが必要だと思
います。そういうことに敏感で、すぐに申請される方もあると
思いますが、そうでない方もいらっしゃると思いますので、そ
こは学校でも注意していただけたらと思います。

松本教育長 その他いかがでしょうか（意見なし）。それでは、点検評価
については以上とさせていただきます。続いて報告事項に入
ります。

【5・報告事項】

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

松本教育長 ただいまの報告について質問等ありませんか（質問なし）。
それでは新型コロナウイルスの対応について事務局より説明を
お願いします。

《松原事務局長より説明》

中田委員 マスクをしていると意思の疎通であったり、コミュニケー
ションの取り方も難しいと思いますが、その辺りの指導につ
いては、何かされていますか。

松本教育長 これまでは守るということを最優先にしていたので、ペ
ア学習は禁止、グループ学習も禁止、みんな一斉に前を向
いてという授業をしていましたが、これからはグループ学習もOK
ということになりましたので、その辺りの意識は必要になると

と思いますが、体育でもマスクをするようにという指導がきていますので、難しいところがありますね。

中田委員

日常生活の中で我々でも伝わりにくいことが出てきていますので、子どもたちにコミュニケーションの仕方というものを示すことができると良いと思いますが。

松本教育長

表情で伝わる部分が大きいと思いますので、マスクをしているとその辺りは伝わりにくい部分が出てくるでしょうね。これは表情のこととは少し違うのですが、学校を回った際にある校長先生が今の子どもたちの気持ちがわからないとおっしゃられました。なぜ自分たちは中体連の大会に出ることができないのか、修学旅行も延期になっていますので、本来であれば不満が出てくると思いますが、一切言われないと、この心理がわからないということを心配されていました。子どもたちは本当に楽しく学校に来ており、不登校の数も減っていますが、本音はわからない部分がありますので、顔に出る部分でいかにキャッチするかというところが重要になってくるかと思います。その他ありますでしょうか（意見なし）。それでは、学校給食用食材の生産地別使用状況調査結果について報告をお願いします。

《亀井課長より説明》

徳永委員

去年この話が出た際に、いろいろなところに県内産の食材を納入してほしいというお願いはしているが、業者の方が一定量を確保することが難しいということだったと思いますが、これは境港農協にお願いされたのでしょうか。県の食のみやこ推進課の方とお話しする機会があって、境の状況をお伝えしたところ、学校給食についてはJ A鳥取西部に相談されたらどうですかという話だったのですが、いかがでしょうか。

松本主査

J A鳥取西部とはすでにお話させていただいておりますが、結論としては「ぜひ協力させていただきます」ということにはなっておりません。トップ同士の話で決まったのかはわかりませんが、米子市は先ずはさつまいもから始めてみましようということで、協議が整ったようです。境港市はさつまいもについては困っていないくて、さつまいもについてはJ Aに相談しても

意味がないので、J Aとの協議は進んでないという状況です。

徳永委員 野菜について相談されたということですか。

松本主査 野菜についてですね。果物はほとんど給食には出していませんので、地産地消率アップにはつながりません。肉はJ Aから買っていませんし、お米はご存じのとおり、日野の米を購入させていただいていますので、野菜について相談させていただきました。

徳永委員 それでもダメだったということですね。

松本主査 各市町村に平等に野菜を供給できるよう県が音頭をとっていただくと良いのですが、現状はそうになっていませんので、境港市としては残念なところですね。県に頑張ってもらいたいという気持ちが強いです。

徳永委員 私が話した推進課の方は境港市がJ Aと話をしていることをご存じなかったのでしょうか。

松本主査 知っていると思います。こちらから推進課に話をさせていただいた際にJ A鳥取に話をされたという報告を受けた記憶がありますので、その方が知らないだけで、食のみやこ推進課の方は知っておられると思います。

徳永委員 55%というのは、県平均の70%に比べると低い数字なので、70%に少しでも近づけるようにできることを探しながらやっていく必要があると思います。

松本主査 前回お話が出た後、自分たちでもできることはないかと協議し、先ほど説明があったキャベツもそうですが、葉物やカボチャも冷凍ものではなく、地元産の生の野菜に切り替え、自分たちでカットして使用する等、できることはやっています。市場に対しても全部が県内産で揃わなくても、一部だけでもあれば混ぜて入れてほしいというお願いをさせていただきましたが、実際に入ってきたケースはありませんでした。また、市場と食肉の業者に話を聞いてみないといけないということで、県内産

げることができるのですね。

松本主査

それはわかりません。市場から聞いた話ですが、そもそも県内で野菜がとれる時期は決まっています、あるときはあるが、ないときはないということです。品目によっては、そもそも鳥取県内では収穫できないものもあります。そういった事情もありますので、JAだろうと市場だろうと、そこはどうにもならない部分で、協力してくれたからと言ってどうにかなるものでもありません。設備の話になると、玉ねぎが大量にとれたときに冷蔵機能があるストックヤードを持っていけば、そこで保管することで通年使用できると思いますので、その辺りの兼ね合いもあると思います。

徳永委員

市場や農協が協力してくれる環境がもう少しあれば、数字は上がるということですね。

松本主査

JAがもう少し協力してくれる体制を整えば、数字はもう少し良くなる可能性はあると思います。

徳永委員

わかりました。

松本教育長

私自身、このことの課題がどこにあるのか掴みきれていないので県に向かっていく切り込み方がわからず、今は対峙していないのですが、その材料をもらえるとその部分を探ることはできるかなと思います。一つ気になるのは、地産地消を進めると給食の単価が上がるということはありませんか。

松本主査

あります。顕著なのが食肉で県内産しぼりをかけると入札原理が働かなくなるので、業者の言い値になります。そうなると価格は相当上がってくると思います。

松本教育長

境港市の給食費はものすごく安いんです。私が大山町で勤務していた時はこんなものじゃなかったです。大山町は地産地消できており、先ほど話があったようにとれないものは使わないという主義で献立も作成してある感じでした。その分値段も高いので、その辺りも考える必要があります。

松本主査 大きなところで言うと、地産地消に関しては農林水産省が所管しており、国内産の野菜の使用量が上がれば良いという考えになりますが、文部科学省が所管する学校給食が目指しているものとは必ずしもマッチングするものではありません。食のみやこ推進課は農林水産省の考えに沿って地産地消率70%という数値目標を一方向的に作っているのですが、そのものが学校給食にとって弊害になる部分もあるというところもあり、あまり単純なことではないと考えています。

松本教育長 そのことが山陰12市の給食の会で議題になったりしますか。

松本主査 前回の会では議題に上がってなかったと思います。過去にはあったかもしれませんが。

松本教育長 私ももう少し勉強して、要求すべき点は要求していかないといけないかと思います。ただ、昨年徳永委員さんから話があり、48%から55%には上がっていますので、そこは評価できますね。

松本主査 実際にはキャベツをお願いしていた生産者の方が、年末から体調を崩されてしまったので、それがなければ60%になっていたと思います。

松本教育長 いろいろな課題があるということがわかりました。この案件についてはよろしいでしょうか（異議なし）。

【5. 閉会】

松本教育長 それでは議題は終了しました。本日の定例委員会は閉会といたします。ありがとうございました。